

塩野義製薬株式会社からの報告の概要
(12月21日16時00分までに受けたもの)

<塩野義製薬株式会社から受けた報告の内容>

- 塩野義製薬株式会社医薬研究センター（大阪府豊中市、以下「センター」という。）において、実験のため放射性同位元素の炭素14（非密封線源）を投与したマウス2匹の死骸（以下「当該マウス」という。）について、放射性廃棄物として処理するため、滅菌処理を行った後、センター内の冷凍庫に保管していたが、本年10月18日、当該冷凍庫にないことが判明した。
- 判明後、センター関係者の聞き取り調査やセンター内の捜索を実施したが、発見には至らなかった。また、当該マウスを冷凍庫に保管後にセンターから公益社団法人日本アイソトープ協会（以下「RI協会」という。）に搬出済みの放射性廃棄物の容器に誤って混入した可能性について調査したところ、容器の一部はRI協会にて焼却処分済みで、処分前の容器について返却を受けて捜索したが、発見に至らなかった。
- 以上のことから、本日（21日）15：20、放射性同位元素の所在不明と判断した。
- 所在不明になった当該マウスの炭素14の投与量は合計0.59MBq（メガベクレル）である。
- 放射線の影響について、当該線源から1メートル離れた場所での線量率の評価値はバックグラウンド程度である。
- 当該マウスについては既にRI協会において焼却処分された容器に混入されていた可能性が高いと考えている。

以上